

次代を担う人材を育て環境を保護

企業経営や企業価値向上のためには、CSR（企業の社会的責任）が不可欠な時代になっている。また、企業の持続的成長にはすべてのステークホルダー（利害関係者）との良好なコミュニケーションも重要だ。日本経済新聞社は昨年末、東京で「今、求められる企業の社会貢献」をテーマに、「日経産業新聞フォーラム2006」（協賛・積水化学工業）を開いた。企業が社会貢献に取り組む意義、また社会が何を企業に要請しているかなどを話し合った。

パネリスト カッション 「今、求められる企業の社会貢献」

荒木 貴之氏	立命館小学校教頭
中村 玲子氏	ラムサールセンター事務局
平尾 佳淑氏	ゴールドマン・サックス証券 チャリティブル・サービス・グループ
桶谷 省氏	積水化学工業CSR部 環境経営グループ長
〈コーディネーター〉	
池上 彰氏	ジャーナリスト

▼企業の社会貢献

池上 まず企業の社会貢献についてどのようになっているか、荒木さんからお願いします。

荒木 立命館小学校は京都市に二〇〇六年四月に開校、現在一三年生三百六十七人が通っています。「本物に学ぶ」をコンセプトに、様々な企業と連携して教育に取り組んでいます。私は〇五年度に立命館に来る前は東京都教育庁で人権教育や理科教育を担当、フリーターやニート増大の状況に対して「望ましい職業観」を学校教育に取り戻さなければという問題意識がありました。その方策の一つが、学校と社会が結びつくこと、その課題解決に道を開くと考えています。

中村 ラムサールセンターは一九九〇年に設立され、ラムサール条約（国際湿地条約）による日本やアジアの湿地保全を目的に活動するNGO（非政府組織）とのパートナーシップづくりの窓口として、非営利団体など環境教育、普及啓発です。過去にはある自動車会社から広報車を、湿地シンポジウムでは銀行の支援を頂きました。最近では経団連自然保護協議会がワークショップ、企業の社会貢献は金銭面

〈協賛社あいさつ〉



伊藤 結次氏
積水化学工業専務取締役

よる取り組みとして「環境」と「CS品質」「人材」の三つの観点から、企業は事業や製品、サービスを通じて社会貢献すること、それはもちろん、それにプラスして様々な形の社会貢献が大切であると考えます。そのためには、企業を構成する従業員一人ひとりが意識を向かせることも重要です。また〇六年度スタートの積水化学グループ中期経営ビジョンでは、成長と高収益に加え、CSRの実践に力を入れて、社会貢献を同時に実現することが大切だと述べています。

の支援と、一人ひとりの従業員が社会貢献するケースがあります。メーカーはエネルギー利用で環境に負荷をかける面もあるが、私たちが以前から自然保護に努めています。従業員の社会貢献は次世代を担う子供を対象に、積水化学自然塾などで交流の場を設けています。池上 荒木さん、学校として望むもの、あるいは学校と社会との関係をどのようにつづけていくのか。



荒木 貴之氏



中村 玲子氏



平尾 佳淑氏



桶谷 省氏



池上 彰氏

は教員個人に頼るところが大きく、教員の異動に伴いその事業はストップします。学校側にも社会貢献を受け入れる組織づくりが急務だと思います。ただ、大事な点は双方にメリットがあるかどうかです。池上 荒木さん、学校として望むもの、あるいは学校と社会との関係をどのようにつづけていくのか。

▼教育機関との連携

池上 桶谷さんは社会貢献活動で学校、教育機関との連携などを行った経験がありますか。桶谷 家づくり教室を開催しています。特定の先生は熱心でしたが、その先生が退職するまでの間に百六十三のボランティア活動を実施し、約千二百

は活動にすれば景気に左右されず個々の意志で取り組みます。池上 企業の取り組みを学校現場から見ていかがですか。荒木 立命館小学校は複数年ノミの両立は難しく思われる面もあります。その意識の温度差をなくするために社会貢献、自然保護活動を通じて社員意識向上に努めています。

▼どのように検証

池上 社会貢献で大きな検証はどのように行っていますか。桶谷 社内には自然保護活動の実行委員会があり、どこに寄付するかを決めて、それを取締役会に報告します。検証については一年間の成果報告や、NGOの方を招いた活動報告会を開いています。

地域と連携、チームワーク発揮 教員頼みでない受け皿づくり 企業に求めたい実践体験の場 従業員主体で息の長い活動に

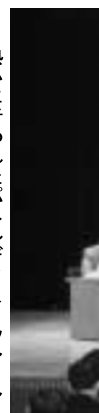
平尾氏
荒木氏
中村氏
桶谷氏

荒木 教育現場は年間指導計画で新しく開く時にはよくアプした社会貢献活動を通じて社内のチームワークが促進され、結果的にはパランスのとれたリーダーの育成にも役立っています。池上 NGOは企業にどういうことをしてほしいですか。荒木 教育現場では、人間が培った知恵や工夫を伝える機会をあまり持てません。ぜひ皆さんの働いていただき、次世代を担う人材の育成にかかわっていただきたいと思っています。

中村 ラムサール条約登録地のラムサールセンターは、ラムサール条約に登録された湿地のそばにある学校の子供たちと湿地環境教育を進めています。学校単位の協力を仰ぐ必要が最も多いですが、企業内でのワークショップや、ラムサールハンドブックを社員が読んで理解して頂ければと思います。

▼CSRの後退は？

池上 一九九〇年代にフィロソフィ・メソッドが話題になりましたが、バブル崩壊とともに衰退しました。今の社会貢献はCSRも景気が悪くなれば消えるのではないかと心配するのですが、昔と何が違うのでしょうか。桶谷 昔は社会貢献の対価として始まったのですが、今は社会貢献活動が収益に影響するようになりつつあります。



熱心に行われたパネディスカッション

企業と社会貢献活動の新しい関係

フォーラム21・梅下村塾塾長
梅津 昇一氏



梅津 昇一氏

「汗」流し世界に誇る「日本の未来」を

一九八七年、二十一世紀に向けての官界・経済界の指導者育成が急務であるとの思いから「フォーラム21」を設立しました。これからの日本を担うリーダーは、バランス感覚を持つべきで、将来像の確かな把握とともに、国際的視野に立つ確かな信念と使命感の全体的な成長が、四つの分野に分かれ、週一回以上の会合に基づき行われます。毎年の「世界的・国家的な視野」をテーマに選定し、例え一九九九年は「日本の大転換」をテーマに日本の安全・保障政策や、地方行政と公務員改革から日本を変えるなどに取り組まれました。また、二つ目としては統一テーマについてまとめたレポート

環境教育が育む社会

東京学芸大学教授
小澤 紀美子氏



小澤 紀美子氏

持続可能な発展へ環境知性を

戦後、私たちは効率性を重視するあまり、他者や自然とのかわりを大切にするゆとりを失ってしまいました。特に一九八〇年代、日本社会は人との交流や関係性について、自己肯定の傾向にあり、自己肯定観を見いだせないでいます。では、どのような考えで対処しているのか、多様な意見や価値観の相対化、相互関係性を認める社会を創（つく）ることです。環境教育においては欧州は「セ・ン・ス・オブ・プレイス（場所の意識）」を重視しています。日本でも国土の成り立ち、自然の生態系、恵みを見直すことが必要です。環境知性をどう育むかが、その教育観は知識伝達・注入・預金型から探求・創出・表現を直接、政治家の方々に政策提言したり本を出版したりすること、広く世間に訴える活動にも力を入れています。これらの活動は研修の一部で、また個人として、新たな社会貢献のモデルではないかと思っています。現在、私は八十二歳ですが、八十歳の時に「流汗悟道」と揮毫（きこう）して全塾生に贈りました。楽をして金も取らないのではなく、真実の汗を流すという思いでしたためたものです。知恵、体力、気力、失敗や悩み、といった色々な汗を出すことで最高の幸せを得られると思います。梅下村塾約六百人のメンバー、この精神のために連帯、将来の子や孫のために日本を良くし、アジアに、また世界に尊敬される国にするべく頑張る所存です。皆さんも、一緒に汗を流そうではありませんか。

広告

（企画・制作）
日本経済新聞社広報局

協賛：積水化学工業株式会社
www.sekisui.co.jp

この特集は日経アドネットからもご覧になれます。
http://www.nikkei.co.jp/adnet